

サンバ(産婆)のリズムで「ラテンな部屋」へ

三宅 はつえ

フリー助産婦

マルチメディアだ、インターネットだと賑やかな今日この頃。「パソコンなんてむずかしそうだし、仕事にはあまり関係ないわ」とお思いの助産婦諸姉が多いのではないだろうか。

かくいう私もパソコン歴半年、パソ通歴1か月という「超ビギナー」なので、皆様ご安心を！

移住先のスペインから帰国しはや半年。本業の産婆に戻りたいと思いつつ、家事手伝いの毎日。会計帳簿のために買ったパソコンでニフティーサーブにアクセスし、パソコン通信を始めた。

「スペイン語の勉強でもしようかな」と「外国語フォーラム・ロマンス語派分館」をのぞいてみる。このフォーラムには西、仏、伊、葡語などラテン語から派生したロマンス語を勉強している人たちが集まっている。普段はそれぞれの言語にわかれているが、息抜きは皆一緒におしゃべり部屋の「ラテンな部屋」で。

「ラテンか——サンバ(産婆)のリズムだな」とワクワクしながらのぞいてみると「オメデタ病棟日記」というタイトルを見つけた。

「待てよ、ここは子育てフォーラムじゃなくて言語フォーラムじゃなかったかな」

あまりに出来すぎた展開に少々ビックリ。9年間ブラジルに留学していた永田銀子さんの妊娠・出産記録が連載されている。もちろん「言語フォーラム」らしく、「お産に役立つポルトガル語」もでてくる。

おもしろいのがこれから先。この3月まで産婦人科医をしていたという半田富美さんが、適時、「医学的考察およびコメント」をしているのだ。半田さんは「仏語フォーラム」に本籍をおいている現在は麻酔科医。そのほかにも、数人が自分の出産話を交えてコメントしている。それぞれお得意

の言語での関連話のおまけつきだ。

それによると西、仏、独語ともに「悪阻」という単語はなく「妊娠中の吐き気」という造語で表現されているらしい。「悪阻」という単語の語源はなんなのか、謎が残っている。

こんな風に、パソコン通信の各フォーラムに参加している人たちは、出産経験者だったりするわけだ。パソ通を活用したら、おもしろいデータを集められるんじゃないだろうか。

パソコンの活用法としてもうひとつ。

ロンドンで開業助産婦として活躍されている高橋浩美さんの講演でのこと。英国の助産婦教育を履修した彼女は、日本の助産婦教育との大きな違いとして「データ・ベース」の活用をあげていた。どんなレポートを書くにも、その裏づけとして「データ・ベース」を活用していなければ認められないそう。データ・ベース」の検索はもちろんパソコンで行なわれる。助産録もパソコン管理になっているという。パソコンで管理すれば、統計処理が非常にたやすくなる。自分たちの仕事を正当に評価してもらう手段のひとつとして、英国の助産婦達はパソコンを使いこなしつつある。

前述のパソコン通信に話をもどそう。ニフティーサーブには「子育てフォーラム」というのもあって、プレママやそれぞれの月齢で分けられた部屋で活発なおしゃべりが繰り広げられている。お母さんやお父さん達の話に耳を傾けてもいいし、専門家としてコメントをつけてみるのも面白い。

あまり難しく考えずに気楽に、とりあえず「パソコン通信」始めてみませんか。サンバ(産婆)のリズムはラテンのノリですから！

¡ Vamos a la sala de Latín !

ラテンの部屋にいきましょう！